

中曾根康弘氏

群馬県名誉県民顕彰式



日 時 平成23年10月28日(金) 午前10時
場 所 群馬県庁昭和庁舎3階 正庁の間

群馬県

ほほえみは

碧空にあり

慈世観音

中曾根康弘



結縁、尊縁、随縁——三縁の哲学

中曾根 康弘

私は青少年の頃、いつも夕方二階の物干し小屋の屋上によって、日の沈みゆく大空と上毛三山を眺めてきたものだ。目の前の赤城山や榛名山、西の妙義山や浅間山の暮れゆく姿をじっと眺め、とくに浅間山の肩に夕日が落ちてゆく時は大自然の霊気に打たれ、時折、呼吸の止まる思いのすることもあった。やがて燭天の空に星座が輝き始める時、辺りはすっかり夕闇に包まれていて、暗い階段を駆け下りて、母屋に帰ったものだ。爾来、私は大自然教という独自の信仰を持たされた。人間をはぐくみ、共生を教えてくれた宇宙、大自然、上州の山河。

天の川 わがふるさとへ 流れたり

その後、学業を終えて、戦時に行き、戦後、政治家になつてから何回か選挙戦を浴びてきたが、政治家となつた今も私を支えているのは、あの時、私の体に宿つた上州の大自然の霊気である。

その頃から、私は「結縁、尊縁、随縁」という三語を生涯の教訓として、毎年、自分の手帳に刻み、時々見聞いては自らを戒め、また自らに勇気を与える座右の銘として奉じてきた。

結婚にしても友人付き合いにしても、結縁——縁を結ぶのは宇宙の霊、神の引き合わせと思う。

その縁を大事にして、あの世に行く時に「お互いによかったね」と、夫婦、友人の間で言い合つて別れる。人生は試意を尽くして終わりにしたい。

くれてなお 命の限り 輝しくれ——尊縁である。

随縁——出生、学友、夫婦、社会、国家、世界、みな縁で繋がりが、縁で生かされている。縁は生命であり、人生であり、文化であり、政治であり、世界であり、ビッグバンを起こしたのも何らかの縁であり、縁は宇宙の根源である。縁によって群馬の一隅なる郷土に生まれ、日本に生まれ、世界に生まれ、宇宙に生まれたことであり、有難いことである。

郷土群馬に栄えあれ！



▲第一次中曾根内閣誕生



▲東京サミットでミッテラン大統領と



▲全斗煥韓国大統領と

